VISCON JAPAN　パワポ V6 用 スクリプト

想定時間：8 分 ／ 実機デモ、モニター投影、または資料提示をしながら話す標準スタイル。

導入と企業理念・グローバル実績（Slide 1～3）

皆様、こんにちは。本日はお時間をいただき誠にありがとうございます。
グラビア印刷やドライラミネートの現場において、「色ムラや印刷不良がなかなか減らない」「インキや溶剤、接着剤のロスが多くてコストが嵩む」といった課題に直面していませんか？

私たち VISCON JAPAN のミッションは明快です。「VISCON」とは、「Very Important Solutions CONtrol（非常に重要なソリューション・コントロールの提供）」を意味します。

弊社は日本に研究開発・設計および基幹部品の製造拠点を置き、上海での最終組み立て、そして香港を基点として、現在世界 32 カ国のお客様に製品と万全の After-sales サービスを提供している、粘度コントローラーのグローバルパイオニアです。
現在、世界 13 カ国に正規代理店を配置し、近い将来 20 カ国への拡大を計画しています。

市場の常識と現場が抱える「3 大故障原因」の真実（Slide 4～5）

さて、市場のトレンドに目を向けてみましょう。粘度コントローラーの普及率（推定）は、日本市場ではすでに 85%以上の安定期に入っており、アジア市場でも 10～25%だったものが現在では 50～60%へと急成長しています。

つまり、粘度管理はもはや単なる「オプション」ではなく、工場の「標準装備・世界的な必須コンプライアンス」へと変化しているのです。

しかし、ここで非常に重要な問題があります。
市場には、精度が悪く、不安定で、故障を頻発する「安価な類似品」や「機能不足の粘コン」が溢れています。これらは、実質「ただの循環ポンプ」に過ぎません。これらを導入した現場では、結局メリットを享受できず、オペレーターの強い不満に繋がっています。

では、なぜ従来の粘コンは現場で嫌われるのか？

弊社が 14 年間にわたる膨大な故障データを集計した結果、トラブル原因の 100%が、

機械の性能不足、あるいは現場のケア不足や操作ミスに起因することが判明しました。

内訳は、「洗浄不足」が 50%、「注油不良」が 30%、「操作不適切」が 20%です。

特許技術による課題解決：Turbo Wash ＆ スマート注油（Slide 6〜10）

私たち VISCON は、この現場の不満を 2 つの日本特許技術で徹底的に解消しました。

まず、故障原因の半分を占める「洗浄不足」を解決するのが、【特許第 6421093 号】自動

「TURBO WASH（ターボウォッシュ）」洗浄システムです。

従来の溶剤循環に「圧縮エアー」をミックスすることで、強烈な気泡による「ブラッシング効果」を創出。ホースやポンプ内部のインキ汚れや固着詰まりを強力に自動洗浄します。
これにより、粘度コントロール精度を極限まで維持し、現場の洗浄作業時間を劇的に短縮します。

次に、原因の 30%を占める「注油不良」を解決するのが、

【特許第 6363571 号】自吸式自動リサイクル「スマート」注油システムです。

従来の粘コンは、オイルが空になると非常に面倒なエアー抜き作業が必要で、これが原因で現場がエア抜き作業をせず、ポンプを摩耗させて壊していました。
もっとも、殆ど大多数のお客様はこのエア抜き作業の必要性も知らされておらず、それは現在においても変わっていません。ですから、これはお客様に非があるとは言えず、メーカーが解決する問題でもありました。
弊社のスマート注油システムは、エアー抜き作業が一切不要の完全自動設計です。
最適なタイミングと量を自動で供給するため、ダイアフラムポンプパーツの摩耗を完全に防ぎます。

なぜ注油がこれほど重要なのか。ポンプは 1 時間に 9,000 回、1 年で約 6,000 万回も激しく往復

運動をしています。もし注油が 3 ヶ月ストップすれば、ポンプ部品は確実に摩耗し最後は故障します。VISCON の特許技術は、この重大な稼働リスクを未然に、完全に排除するのです。

先進製品ラインナップ：工場 DX 化 ＆ 世界初の完全自動化（Slide 11～13）

この圧倒的な高精度・高耐久性があるからこそ、私たちは標準の機械に留まらず、次世代の「省力化・省人化・工場 DX」の先進ラインナップを展開できています。

1 つ目が、集中管理・工場 DX 化システム『iCom Ready Package』です。

すでにご使用中のグラビア印刷機に後付けで設置できるよう、プログラム設定済みのタッチパネルと iCom 粘度コントローラーをパッケージ化しました。

シリアル通信（RS485 MODBUS RTU）により最大 12 チャンネルを集中コントロール可能です。

さらに、太洋電機産業様の「カラコン」画面に粘度情報をリアルタイム表示させるコラボレーションや、ダックエンジニアリング様（Crossover HS / BEAT Vision）の画像検査装置とオンライン通信接続し、検査機が検出した印刷物の色濃度と粘度情報を比較判断して、色補正を全自動で行う、世界初の品質トレーサビリティと DX 化を実現しています。

2 つ目が、白インキやドライラミ用接着剤の補給を完全自動化する『LC（レベルコントロール）シリーズ』です。

20～30 分ごとの手作業による重労働だったインキや接着剤の補充を、10kg ずつこまめに自動補給する新方式に変えました。これにより、長時間の稼働でも流体温度や粘度の急激な変化（スパイク）を防ぎ、品質を飛躍的に向上させます。

3 つ目が、生インキや接着剤、溶剤、硬化剤を配合比に従って全自動調合する『VAD シリーズ（自動調合ディスペンサー）』です。

この【VAD 自動調合 × LC 自動補充】の連動システムは、まさに『業界初・世界初』の革新技術であり、調合から補充までを完全密閉された ハンドフリー の流体ロジスティクスへと変革します。

安全性へのポリシー & 性能比較・結び（Slide 14）

最後に、日本の現場に「絶対的な安全」をお届けするための弊社のこだわりをお伝えします。
グラビア印刷やドライラミ工程において、最も恐ろしいのは静電気による火災リスクです。

未だ市場では安価なプラスチック製の小容量タンクが使われているケースを見かけますが、これは非常に危険です。
VISCON は、静電気を導電で安全に逃がす「高信頼性ステンレス製溶剤タンク」を必須ポリシーとして標準採用しています。さらに業界最大級の「16 リットル」大容量設計にすることで、オペレーターのつぎ足し回数を最小限に抑え、現場の労働負荷を劇的に軽減します。
日本市場では未だにプラスチック製溶剤タンクの 4 リッター、10 リッタータイプも見かけます。

従来の粘コンが抱える弱点を VISCON 製品はすべて「優秀（◎）二重まる」へと塗り替えました。

インキ・接着剤の消費量を 15%以上削減し、ロスを利益に変える。

御社の工場でも、VISCON 製品で省力化、省人化、「コスト削減」「品質向上」「安全な工場 DX」を始めませんか？

ご清聴ありがとうございました！